



RI会長
ゴードン R. マッキナリー

世界に希望を生み出そう

ま
る
が
め

週報

会員数 54 名
欠 席 者

出席者37名・欠席者15名・免除会員10名
秋山憲・麻田・有家・後藤・飯間・稲田・和泉享・川原・松山
岸上・増田・松村・内海・山下・山本広・会員

前々回出席率 74%(5/23)

2024.6.13
Vol.61
№37
(2942)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

会 長 福田 洋子
幹 事 尾崎 浩太郎
会報委員長 稲田 達典

お知らせ

6月のプログラム

6 (No.1)-新旧委員会引継
13 (No.2)-国際大会報告
20 (No.3)-納会

ニコニコBOX;

祝誕生月
中川君

安藤AGをお迎えして
夏見GE国際大会のお話
ありがとうございます

福田君
一年間ありがとうございました
安藤ガバナー補佐様

<ニコニコ会計累積/¥210,000>

がんばるBOX;

一年間ご協力ありがとうございました

福田君
高松空港へお客様を迎えに
行きます
支部長より・古川さんがお世話
になりました
古川君
一年間ありがとうございました
尾崎君
国際大会報告を終えて
夏見君

<がんばる会計累積/¥318,000>

例
会
場
・
事
務
局

丸
亀
市
塩
飽
町
50
―
3
丸
亀
プ
ラ
ザ
ビ
ル

■会長挨拶

今日は、例会場での今期最後の例会です。いろいろ考えさせられた一年と数ヶ月でした。以前にも言ったことありますが、ここに立っていること事態が私の人生設計にはなかったことです。私には60歳からすることの夢がありました。主人が亡くなり実現できませんでした。でもロータリークラブに入会して、いろいろな方と出会い、おしゃべりでき良かったとも思っています。しかし、最近は疲れてきたのも正直な気持ちです。6月10日今期来期の会長幹事会がありました。会長幹事になるとよく会う機会があり親しくなります。先日の会も皆さんとてもいい発表をしてくださり、和やかで笑いあいの会でした。これも若い方が多く集まっていたからかと思います。安藤ガバナー補佐がお若いので、皆様、屈託ないお話ができ盛り上がりしました。最後に今期1年皆様のご協力があつて無事に終えることができましたこと感謝いたします。有難うございました。

■会長報告

安藤修二ガバナー補佐が退任ご挨拶のためご来訪くださいました。

■次年度理事会報告

①例会場の変更について 昼食代や会場費などを考えて、メンバーの意見も踏まえながら、時間をかけて決めていく。当面は会場を変更しないで、プラザビル5階のままとする。

②役員・理事・委員会構成について 会員増強・退会防止委員会／会員選考・ロータリー情報委員会に岡田会員が加わる。中期計画委員会に、会長・幹事・副会長・副幹事も加わる。

③理事会報告について クラブ全体に周知するためにも、週報に掲載するだけでなく、例会時に口頭でも報告することにする。

■例会事業; シンガポール国際大会報告; 夏見ガバナーエレクト

まず、国際大会出席の意義や印象について述べます。

2024年5月25日～29日にシンガポール・マリナベイサンズにあるサンズ・エキスポ&コンベンションセンターで開催されたシンガポール国際大会に参加してきました。

国際大会は、ロータリー最大のイベントで、シンガポールには世界中から約25,000人のロータリーアンが参加しました。

大会初日には恒例の日本人親善朝食会が佐藤芳郎RI理事主催のもと開催され、朝6時半には約800人が参加し、ゴードンRマッキナリーRI会長も参加されたこともあり早朝から大変な活気でした。開会式は参加人数が多く2部構成で、午前は欧米諸国のロータリーアンが、午後からはアフリカ・アジア諸国のロータリーアンが参加しておこなわれました。オープニングはシンガポール色満載で歌や踊りの大変盛り上がったオープニングでした。開会本会議は「世界とつながりをわかちあおう」がテーマで、プレゼンテーションはどれも素晴らしく、大変勉強になるものばかりでした。

今回は2670地区からも約、60名が参加し、夜には、吉岡ガバナー主催のガバナーナイトが開かれ、締めめの阿波踊りで大いに盛り上がった楽しい夜でした。大会期間中は本会議の他に、ワークショップやフォーラム、友愛の家など多くのセッションがあり、どれも興味深いものばかりでした。夜には、晩餐会も準備されており皆さんフォーマルな雰囲気の中でシンガポールの夜を楽しんでいました。

(裏へ続く)



2024.6.13

Vol.61

№37
(2942)

また、食事については、宗教の関係からか鶏肉料理が多い感じでした。
5日間をとおして大変貴重な時間を過ごすことが出来ました。やはり、内側から
いつも日本を見るのではなく、海外、つまり外から日本を見てみるのがたまに
は、必要なのではないかなと感じました。

2025年の国際大会はカルガリーです。皆さまのご参加をお待ちしています。